

<巻 頭 言>



年頭のあいさつ

柳 川 城 二*

明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

我が国では、ここ数年、大変厳しい気象条件により水害・土砂災害が毎年のように頻発しています。昨年も台風15号、台風19号などにより大きな被害を受けました。台風19号では、千曲川や阿武隈川をはじめ全国74河川、140箇所 の堤防の決壊が生じました。一つの台風でこれだけ多くの河川堤防が決壊するというのは、これまで経験したことの無い事態で気象条件の激化を物語るものであり、台風のますますの狂暴化が懸念されます。

台風19号では、試験湛水中であった八ツ場ダムが7,500万 m^3 の大量の洪水を貯留し、洪水被害の軽減に貢献したことが話題となりました。ダムや遊水池によって洪水をカットすることの有効性が改めて実証されたのではないかと思います。

現在、政府においては防災・減災の国土強靱化緊急3か年対策が進められていますが、今回の災害を受け、ダムを含めた防災インフラ整備の重要性が改めて再認識され、今後の長期的な対策の検討が行われています。今後の取り組みに大いに期待したいと思えます。

日本大ダム会議では、昨年、技術委員会の「既設ダム機能活用検討分科会」の報告を取りまとめ公表しました。現在、既設ダムの再開発をはじめ多くのダム再生事業が実施され、今後も多くのダムの再生事業の事業化が行われることになると思いますが、この分科会報告はダム再生事業の実施に大いに貢献するものと期待しています。また、ダムの設計基準についてもレベル2地震動も含めたダムの耐震設計、近年の気象条件の激化も踏まえたダム設計洪水流量の評価、台形CSGダムなどの新しい型式のダムや既設ダムの再開発の設計等について、現在「ダム設計基準調査分科会」において設計基準の改訂を視野に入れた検討を進めており、今年度中には取りまとめを行いたいと考えています。

今年は、国際大ダム会議第88回年次例会が4月早々にインドのニューデリーで開催されます。また、日本、中国、韓国の3か国で隔年ごとに持ち回りで開催している第11回東アジア地域ダム会議(EADC)が韓国の太田市で10月に開催される予定です。例年通り、多くの皆様の参加を期待しています。終わりに、本年も日本大ダム会議の活動に対する皆様方のますますのご支援とご協力をお願いし、年頭のごあいさつとさせていただきます。

* 一般社団法人 日本大ダム会議 会長